

行田市市民公益活動団体のPR強化事業

団体名 行田市市民活動フェア実行委員会

助成分野 ☐ ひとの元気 ☐ 地域の元気 ☒ まちの元気

1 事業の目的

市民活動活性化のため、市民活動フェアを定期的実施しているが、回数を重ねるごとに参加団体も増え、市民活動への参加意識が高まっていることは明らかと言える。

ただ、フェア開催については、チラシ・ポスター等のツールにて(事前より)告知し周知を図っているが、当日周辺でのPR(呼び込み)効果が弱く、会場内(特にみずしろ屋内)への誘導が弱いとの指摘も多々あった。

そのため、フェアの目的の一つである「会場周辺の賑わいの創出」「参加団体の横のつながりづくり」のため、屋外でも広く使える新たなツールを整備し、会場周辺での告知効果を高め、参加団体スタッフの協働意識を醸成することを目的とした。

2 実施内容

個々の市民活動団体のPRではなく、行田市市民活動団体全体を市民や対外的に印象付ける汎用性の高いツール(市民活動フェアのぼり旗5セット、スタッフ用共通ベスト10着)を整備することで幅広い活用を実現した。

【購入したもの】

- ・市民活動フェアPRのぼり旗セット(5セット)、スタッフ用ベスト10着。

【活用した事例】

1) 行田市内で展開したパネル展(複数回)にてのぼり旗活用

- ・市民活動パネル展(行田窯)にてのぼり旗活用(2024.10.5)
- ・市民活動パネル展(みらい談話コーナー)でののぼり旗活用(2024.11.26~12.5)

2) 市外イベントでの行田市出店時での行田市PRの目印となった。

- ・ニャオざねまつり(熊谷市)にて行田市ブースでののぼり旗およびスタッフベスト着用(2024.10.26)

3 事業費と主な支出内容

(1) 事業費:総額 35,943円(内やる気応援助成金 17,878円)

(2) 支出の主な内容

- ・のぼり旗セット(のぼり旗、ポール、注水台) 5セット 13,888円
- ・ベスト 10着 22,055円



4 事業の成果と今後の課題など

【成果】助成金申請時に期待した4つの効果の現段階（令和7年3月）での検証は以下。

- 1)みずしろ会場での開催告知が(会場外まで)拡大でき集客アップにつながる(集客効果)
 - ・2024年秋はおまつり主旨のイベントがなく、当備品を使用する機会はなかった。
- 2)市内(他地区)でのイベントへの出展時に市民活動団体の周知ができる(周知効果)
 - ・行田窯パネル展でののぼり旗設置(2024.10.5)
 - ・市民活動パネル展(みらい談話コーナー)でののぼり旗設置(2024.11.26～12.5)
- 3)市外イベントへの出展時に行田市内のPRが可能になる(行田市のPR効果)
 - ・ニャオざねまつり(熊谷市/2024.10.26)への行田市ブース出展時でののぼり旗設置
- 4)市民活動フェアスタッフの一体感(スタッフベスト着用)を感じられる(連帯感醸成効果)
 - ・ニャオざねまつりでの行田市スタッフがおそろいのブルーベスト着用。のぼり旗との同一カラー(ブルー)で行田市PRに貢献

事務局(サポートセンター)の努力もありパネル展の面での展開が拡大できた中、汎用性の高いのぼり旗は大きな目印となった。

【副次的成果】事業の推進に伴い市民活動にプラスとなる副次的な成果もあった。

- 5)隣接地域(熊谷市)との市民活動交流のつながりができた。
 - ・ニャオざねまつりへ行田市が出展したことを機に今春の市民活動フェア春まつりに熊谷市が出展することになった。今後さらに他市へのアプローチも期待できる。
- 6)行田市内民間企業内で市民活動パネル展が実現した。
 - ・市民活動ウィーク中の合同研修セミナー参加の民間企業(同企業の行田工場)より依頼があり、社員教育のためパネル展示(2025.2.8～2.28)。初めての企業内パネル展。
- 7)市民活動での自己資金づくりの一つの好例となった
 - ・やる気応援助成金申請にあたり、自己資金確保が必要であったが、物販の企画実施により資金づくりの一つの方法が実証できた
 - ・実行委員会での初の物販販売は連携プレーが冴え予想以上の実績(早い完売)となり、継続実施の声があがり今年春まつりでも実施予定となった。

【今後の課題】

- 1)備品のメンテナンスや補充体制が必要になる
 - ・今回の備品整備は最低限必要とした数量であったため、また消耗品でもあるため(使用状況を見ながら)補充や拡大が必要となる。
- 2)備品活用の効果につき定量評価まではできなかった。
 - ・備品が予定以上に活用されているのは事実だが、理想を言えばのぼり旗による集客や周知の効果を定量的に把握したかった。

